

城南五山とは…

城南五山(じょうなんござん)は、東京城南地区にある高台5カ所の総称である。山手線の内側、目黒駅から品川駅にかけての地域にあり、古くから高級住宅街として知られる。御殿山(ごてんやま)、八ツ山(やつやま)、島津山(しまづやま)、池田山(いけだやま)、花房山(はなぶさやま)で構成され、それぞれは大名屋敷や大名出身の邸宅があった。明治に入って、財閥や実業家の邸宅に引き継がれた。



御殿山花見 品川全図クリアファイル(A4) 品川歴史館にて発売 200円

御殿山

徳川将軍家の別邸「品川御殿」にその名の由来をもつ。鷹狩りの休憩所や茶会の場として利用され、江戸時代中期には桜の名所となった。

八ツ山

名の由来に定説はないが、村の古名「谷山村」が転訛したものとするのが有力。

島津山

仙台藩伊達家の拝領地が、明治になってから旧薩摩藩主島津公爵の邸宅地になったことに由来する。

池田山

備前国岡山藩池田家の下屋敷地だった一帯で、箱根土地株式会社が分譲住宅地として宅地開発した丘。

花房山

明治末に花房義質子爵が屋敷を構え、江戸時代には播磨国三日月藩森家の上屋敷などがあった丘。

大名が愛した城南五山

御殿山 八ツ山 を巡る

八ツ山

八ツ山は北品川北端の地名で武蔵野台地の突端の丘端。名前の由来については、昔この付近には八つの岬があり海に突き出た海岸だったためこの名がついた。【八ツ山橋】明治5年(1872年)に鉄道が開通し、日本で最初にできた鉄道陸橋。南側の第一京浜国道にかかる新八ツ山橋北側の線路は、映画「ゴジラ」で撮影された京浜急行電鉄の線路。

御殿山

御殿山は江戸時代品川宿を見下ろす丘陵で、地名は三代将軍徳川家光の品川御殿に由来する。一説に太田道灌の館があったとされるが史料に乏しく、定かではない。徳川吉宗の時代は桜の名所となり北側が削られ、開国で公使館焼き討ち事件の場所となった。明治に入り鉄道開通で大きく削られ汽笛と共に移り変わり、リニア中央新幹線が真下を通る工事が始まる。



一般社団法人 しながわ観光協会
SHINAGAWA TOURISM ASSOCIATION
☎03-5743-7642
<https://shinagawa-kanko.or.jp/>
〒140-0014 品川区大井1-14-1 大井1丁目共同ビル1F
【営業時間】午前9時30分～午後5時 【休館日】祝日・年末年始





権現山 1 品川区北品川3-9-5

権現山公園は江戸時代の桜の名所・御殿山に連なる高台権現山に位置する細長い公園。

幕末の英国公使館跡 2

英国公使館焼き討ち事件は文久2年(1863)12月12日御殿山で建設中のイギリス公使館が高杉晋作ら攘夷志士に焼き討ちされた事件である。 品川区北品川3周辺

元御殿跡 3 品川区北品川3-4周辺

将軍が茶会(21回)や鷹狩に使用した別邸を御殿と呼んだ。品川御殿は三代将軍家光が茶会などの他、幕府の重要行事で幕閣集めここで会議でも利用した。寛永9年(1633)の馬揃(闘兵式)と2年後の御座船安宅丸の上覧では諸大名を招集、寛永17年(1640)には毛利秀元の御殿山大茶会を開催。御三家と幕閣や大名なども茶会を開催。

台場築造土取跡 4 品川区北品川3-4周辺

安政元年(1854)品川台場築造のため、御殿山・ハツ山などの土を取り出し台場に使用した。御殿山土取場から鎌倉時代から戦国時代の板碑や法善寺印塔、五輪塔が出土し、明治2年に由来を記した「法善寺板碑」が板碑を納めた堂と共に建てられた。

ミャンマー連邦共和国大使館 5

ミャンマー連邦共和国、通称ミャンマーは、東南アジアのインドシナ半島西部に位置する共和制国家。人口5,142万人、首都はネピドーで1989年まではビルマと呼ばれていた。 品川区北品川4-8-26

原美術館 6 品川区北品川4-7-25 開館時間:11:00~17:00 月曜休館

原美術館は東京ガス会長、日本航空会長、帝都高速度交通営団初代総裁であった原邦造の邸宅として建てられた。この洋館は日劇(現在の有楽町マリオン)や東京国立博物館、和光本館などを手掛けた渡辺仁の設計で、昭和初期の建築物として非常に貴重な物。モダニズムのデザインで、柔らかなカーブの曲線とシャープな直線、水平に広がる低層階と垂直な塔屋、初期モダニズムの象徴である屋上空間の利用も見られる。

旧吉川英治邸 7 北品川5-17-14

昭和8年(1933)建築道楽と言われた人が粋をこらして作った豪邸。吉川英治は明治25年(1892)に横浜で生まれた小説家。「鳴門秘帳」や「宮本武蔵」「新書太閤記」などを著し、昭和28年から3年あまり居住。その間に「新平家物語」を完成し作家としての円熟期をこの地で過ごした。

松平出羽守下屋敷跡 8 品川区北品川5-14周辺

出雲の国、松江藩松平家大崎下屋敷で第七代藩主「松平治郷(不昧)」が隠居後11の茶室を作り茶道三昧の晩年を送った。その中の一つ「独楽庵」は、千利休が宇治田原に作った茶室で、大阪にあったものを不昧が大崎下屋敷に移築させた。その後、15代將軍徳川慶喜の兄で33万石大名、鳥取藩主松平(池田)相模守の下屋敷となった。

開東閣 9 港区高輪4-25-33 非公開

開東閣(かいとうかく)は、明治22年(1889)岩崎久弥が、初代首相伊藤博文の邸宅だったこの地を購入し、明治33年岩崎弥之助が譲り受けイギリス人建築家ジョサイア・コンドルの設計で明治41年に完成した。敷地面積11,200坪。当初は三菱財閥創始者の岩崎家の高輪別邸だったが、昭和13年に当時の三菱社に提供された。太平洋戦争の空襲で焼却した部分もあったが外観の原型を残し内部の改装を経て、現在は三菱グループの倶楽部として利用されている。一般公開はしていない。



その他の見どころ

【緒明横丁】
江戸時代目黒道の一つで居木橋を渡って行った、明治に入り天王洲の第四台場で緒明造船所を造った、緒明菊五郎の邸宅があったことから名がついた。

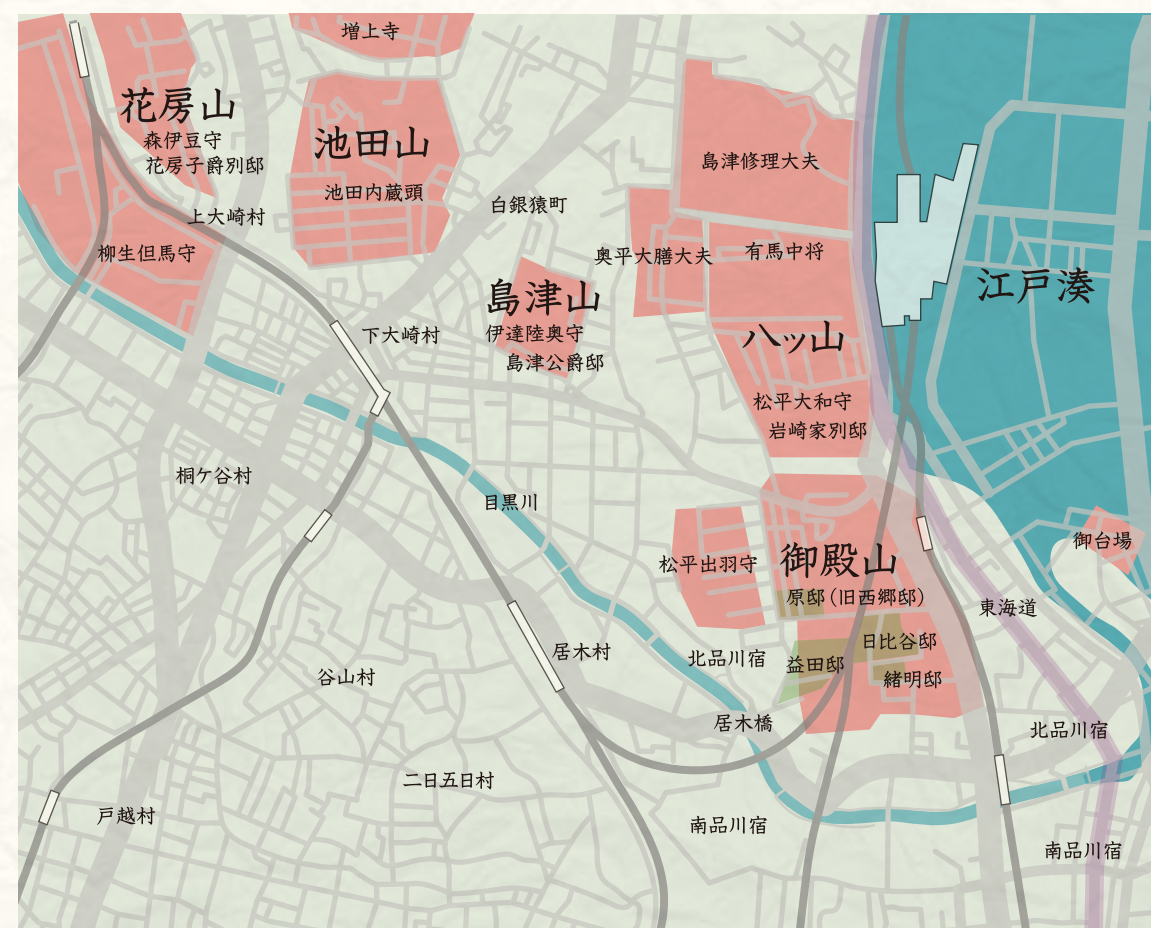
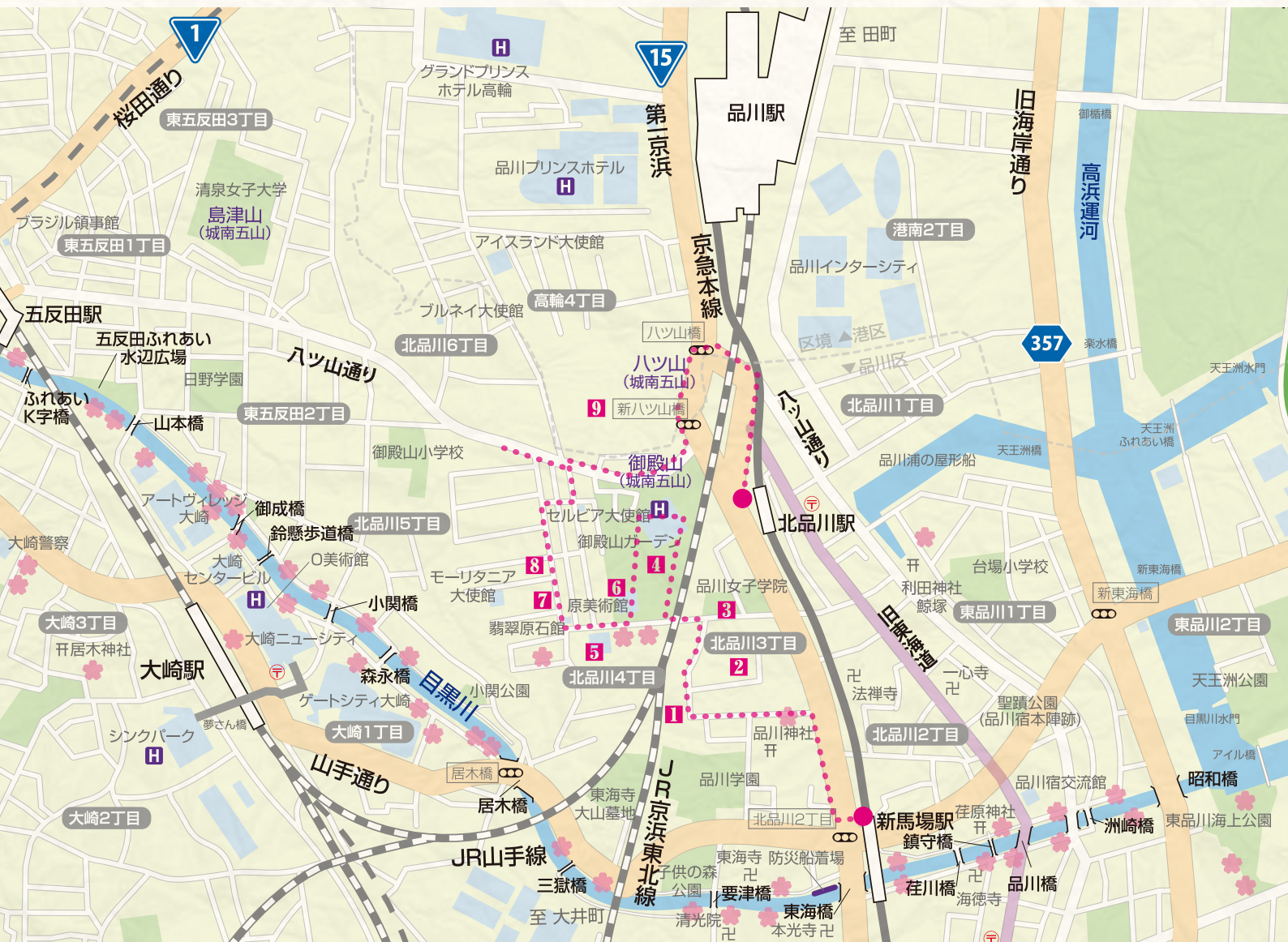
【井上鉄道守邸】
井上勝は長州五傑の一人、幕末にロンドンの大学を卒業、通称弥吉。鉄道発展に寄与し、日本の鉄道の父と呼ばれる。

【日比谷平左衛門邸】
明治期の紡績実業家。東京富士煉瓦紡績や日清紡績など紡績業に深く関わり、東京商業会議所副会長を努めたカネボウの会長。

【益田孝邸】
草創期の日本経済を動かし三井財閥を支えた実業家である。明治維新後、世界初の総合商社・三井物産の設立に関する。茶人としても高名で鈍翁とて号し、「千利休以来の大茶人」と称された。

【御殿山トラストシティ】
塔屋2階のオフィス棟「御殿山トラストタワー」と南側の地上25階、地下3階の「御殿山トラストコート/東京マリオットホテル」で構成されている。

【西郷従道邸】
西郷従道邸は、西郷隆盛の弟従道が元横浜正金銀行頭取の原六郎に売却。原六郎、もとの名は進藤俊三郎長政。幕末の志士、軍人、銀行家、実業家。この場所が後の原美術館。



- 新馬場駅**
- ▼ 1 権現山
 - ▼ 2 幕末の英国公使館跡
 - ▼ 3 元御殿跡
 - ▼ 4 台場築造土取跡
 - ▼ 5 ミャンマー連邦共和国大使館
 - ▼ 6 原美術館
 - ▼ 7 旧吉川英治邸
 - ▼ 8 松平出羽守下屋敷跡
 - ▼ 9 開東閣
- 北品川駅**
- 距離: 約4km 時間: 約90分

